

新潟県がん診療連携協議会 提案議題

委員名： 新潟県看護協会 斎藤 有子

提 案 議 題 2

○がん医療の知識と技術を高めるための、がん看護にまつわる、各病院の取組状況と課題について

提案趣旨及び提案施設の状況

- 令和4年度新潟県がん診療連携協議会研修教育部会において、部会員から、「がん診療の知識と技術を高めるためにどのように看護師や薬剤師の育成を行っているか、各施設の教育システムや工夫などを聞いてみたい。」という意見が掲載されていました。
- がん医療の知識と技術の向上のため、医療従事者の育成の現状と課題を把握することにより、各病院の今後の取組に活かされると考えます。
- さらに、地域医療構想の実現に向け、地域全体で質が高く、持続可能な医療提供体制の確保を図る取組を進めることが求められていますが、院内にとどまらず、地域内のがん診療に携わる訪問看護師等の関係職員の育成について検討する機会としたい。

回 答

新潟大学医歯学総合病院

(1) 取組状況

- ・ 当院には、がん看護に精通した、がん看護専門看護師 3 名、緩和ケア認定看護師 5 名、化学療法認定看護師 2 名が在籍している。看護部支援のもと、以下のとおり各種研修企画運営、人材育成や業務改善等の活動を行っている。

①教育

- ・ 看護部主導で、がん看護研修を毎年開催。
- ・ がんゲノム医療センター、腫瘍センター合同でオンライン研修会を毎年開催。
- ・ がんゲノム医療コーディネーター養成研修を毎年 2 名以上受講。
- ・ がん相談員基礎研修を毎年 2 名以上受講。
- ・ 通院治療センターで、化学療法を主とした、がん看護の教育プログラムに基づきトレーニングを行い、IV ナースを養成。

②実践、連携

- ・ がん看護検討部会として、院内のがん看護の実態調査結果をもとに、患者の苦痛の捉え方と介入方法を事例やカンファレンスを通じて経験知を高める活動を行っている。
- ・ 上記専門、認定看護師が、通常業務以外で活動する時間を確保し、告知同席・精神的支援推進、外来-病棟連携推進など情報連携の仕組み作りと多職種カンファレンス推進に取り組んでいる。

(2) 課題

- ・ がんと診断され告知を受ける外来診療時からの関わりの充実
- ・ ACP の推進のための多職種協働
- ・ 患者の意向や価値観を早期に捉える仕組み作り
- ・ 短期化学療法患者の継続的な精神的支援
- ・ 外来での内服治療患者の継続的支援

新潟市民病院

【取組状況】

- ・ がん看護関連分野の認定看護師による院内看護師対象の研修を年 3 回行っている。
- ・ 病棟からの依頼で、認定看護師が出張勉強会を開催している。
- ・ 地域の医療従事者に向けた専門看護師、認定看護師の出前研修を行っている。
- ・ 新規薬剤を使用した治療が予定される際は事前に製薬会社や薬剤師から勉強会を開催してもらい、安全に投与管理できるようにしている。

【課題】

- ・各病棟や外来のがん看護のレベル向上を目指すために、リンクナースの配置が必要。
- ・現在は各部署でオリエンテーション用紙などを作成し患者に提供しているが、院内で統一したオリエンテーション用紙や冊子などを作成し、エビデンスのある統一した指導を行うこと（CVポート管理などは院内統一した説明用紙を活用しているが、化療オリエンテーションや退院指導などは各部署作成になっている）
- ・がん関連の認定看護師、専門看護師の育成。
- ・自施設にとどまらない専門看護師、認定看護師の活動。
- ・がん診療に携わる地域の医療者との連携。

長岡赤十字病院

●看護師の育成

- ・赤十字施設の看護師キャリア開発ラダーと、日本看護協会の「看護師に対する緩和ケア教育テキスト」の基本的緩和ケアの担い手をもとに、当院としての「がん看護実践能力別課題」を認定看護師会がん看護グループで作成した。
- ・がん看護実践能力別課題に関連するオンライン教育ツールや、院内で実施するがん関連の研修、認定看護師会が実施する研修をレベル別に一覧にし、看護師の自己研鑽の資料としている。
- ・集合研修は、認定看護師会がん看護グループで、院内の看護の現状から必要と思われる研修を実践能力別課題に沿って開催している。今年度は、これまでCOVID-19で集合研修の制限があり、がん看護やがん化学療法の基本的知識の不足を感じ、「がん看護に必要な基礎知識」「抗がん剤の安全な投与管理」「がん化学療法を受ける患者の支援、問診の活用」「意思決定支援」を予定し実施している。ゆくゆくは、「がん看護実践能力別課題」達成に向けた系統だったプログラムとしたいと考えている。
- ・今年度は、上記研修を院内研修としたが、感染状況に応じては、COVID-19感染拡大前のように、近隣の病院、訪問看護ステーションにも案内し、公開研修としていきたい。
- ・がん看護の系統だった研修として、新潟県立がんセンター主催のがん看護研修には参加を呼び掛けている。

課題：認定看護師が主体的に研修会を開催しており、企画、運営の負担も大きい。また、研修参加も時間外で自己研鑽である。働き方改革などが課題とされる中、がん診療連携拠点病院の人材育成として、この方法で継続できるのか不安を感じている。

(文責：がん看護グループ 班長 白井直美)

●薬剤師の育成

- ・新人教育は、年間スケジュールに沿って実施、その中で、がん患者さんとの関りなど

を通し実践を積んでいる。キャリアアップ支援として、外来がん治療認定薬剤師（APACC）認定を推進している（病院ホームページでも紹介）。

・がん診療連携拠点病院主催の緩和ケア研修の参加や、院内緩和ケアチーム主催の研修への参加を促している。

長岡中央総合病院

【1】取り組み状況

《令和5年度 院内看護師へのがん看護研修》

1) がん看護推進委員会企画主催：（開催方法：聴講とweb配信）

5月25日（木）がん看護研修：「地域がん診療拠点病院で働く看護師として」

7月3日（月）がん看護研修 基礎編その1：「がんの看護概論」

9月4日（月）がん看護研修 基礎編その2：「がん治療の特徴」

10月3日（月）がん看護研修 基礎編その3：「緩和ケア」

《令和5年度 地域連携支援部企画主催：地域の医療従事者への研修：がん看護関連》
開催予定「緩和ケア」

【2】課題

- ・今までは対象を院内委員としていたが、今年度から院内看護師全員を初の試みとして実施している。年度途中であり課題はこれから検討予定である。
- ・院内訪問看護ステーション看護師は対象であったが、地域訪問看護師を対象としているがん看護関連の研修は多くない。介入事例に関する連携は直接電話で個別対応している現状であり、地域訪問看護が抱えている課題が見えにくい。看看連携ははかれているのか知りたい。

新潟県立中央病院

【看護部】

当院看護部では、教育体系の中で「専門領域別研修」枠を設けて、全看護職員を対象に「がん看護研修」を設定している。研修目的は、「がん看護の知識を深め看護実践に活かし、がん看護ケアの質向上を図る」としている。研修企画・運営は、専門・認定看護師会が主となって行っている。今年度の研修希望者は70名である。

具体的研修内容は、①がん看護学概論、②緩和ケア、③がん患者のせん妄看護、④手術療法と看護、⑤がん放射線療法と看護、⑥がん薬物療法と看護の6つである。これらの内容を専門・認定看護師が講師となって講義する様子を動画撮影し、e-ラーニングツールにアップし研修希望者がいつでもどこでも視聴できるようにしている。視聴期間を3ヶ月程度とし、期間の最後には視聴済みかどうか研修企画者が確認をしている。なお、コロナ禍前は、集合研修スタイルでシリーズ化して行っていたが、コロナ禍になってから現在のような動画視聴スタイルに変更した。

また、課題としては、以下2点が考えられる。1点目は、「がん看護研修」を全看護職員に設定しているが、上記の研修では視聴希望者だけになってしまい、全員が対象になっていない。全看護職員に視聴してもらいたいが、業務時間内での時間確保が難しいため視聴時間の確保が課題である。

2点目は、がん薬物療法についての知識・技術の向上である。様々な診療科の多数のレジメンに対応していくためには必要な研修だと考える。しかし、当院にはがん薬物療法認定看護師が在籍していない。よって、人材育成も含めた課題がある。

【薬剤部】

- ・がん化学療法を行う患者の薬剤指導

入院：経験の少ない薬剤師が担当している病棟にがん化学療法を行う患者が入院した場合は経験のある薬剤師に同行し、指導内容を見学してから指導を行う。レジメンごとに説明用のリーフレット、メーカーのパフレットがあるためそれらに沿って指導を行う。

外来：外来指導の担当になる場合は、経験者の見学をしてから実際の指導を行っている。外来指導は準備時間が短い。レジメンごとに説明に必要な資材、確認事項、説明すべき副作用をまとめたテンプレートを作成している。そのテンプレートを参照することで経験のないレジメンでも短時間で指導準備、指導内容の把握ができるようにしている。

薬剤部内で育成のための系統だったシステムがないことは課題であると考えている。専門資格を有する薬剤師が1名のみで現状では難しい面もある。

- ・抗がん剤の副作用対策についての研修会を毎年行っている。（全職種対象）

県立新発田病院

① 専門・認定看護師学習会（対象：院内職員）

専門・認定看護師は年間活動計画に沿って研修を企画し実施している。全分野ではないが、研修内容はがん看護及び救急を含む複合的な内容で実施。（13分野 16名）
分野：がん看護専門看護師、集中ケア、クリティカルケア、救急看護、手術看護、糖尿病、認知症看護、緩和ケア、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケア、精神科認定、感染管理、がん性疼痛

② 地域学習会 4回/年（対象：院内職員、地域の医療関係者、介護施設など）

しばた地域医療介護連携センターと協同
がん医療の知識として、医師、看護師、他職種が講師となり zoom で実施。がん関係及び慢性疾患、難病など多岐に渡る。

③ 公開講座 4回/年（対象：院内外の医療関係者、行政関係、一般市民）

しばた地域医療介護連携センターと協同 会場開催

④ 院内講演会 がん診療委員会主催 2回/年（対象：院内職員）会場開催

⑤ 緩和ケア研修会 1回/年（対象：院内職員）会場開催

院内未受講者の医師を中心にコメディカルを含め、がん医療に関する知識技術を提供。

下越圏域を中心に、がん医療の知識を提供するために、上記①～⑤を実施している。課題として、当院の役割から、救急や集中ケアの看護教育に力を入れているため、がん看護に焦点をあて系統立てた研修は企画していない。そのため、3か年計画など、年単位で系統立て基礎編、応用編、実践編など行う必要があるのではないか。また、地域全体でがん医療の質を維持するために、連携が必須である。今後もしばた地域医療介護連携センターと協同で、新たな取り組みを企画していく必要がある。

魚沼基幹病院

(取り組み状況)

- ・組織的に診療部の中に、腫瘍センターを設置し、通院治療室、緩和ケア室、がん相談支援センター、がん登録室 を備えている。
メンバーは医師を室長として看護師長・看護師・事務職員が配置されている。
- ・がん看護専門看護師養成校に1名受講中。
- ・「魚沼がん看護の会」を発足し、圏域内の緩和ケア、がん化学療法、放射線療法、皮膚・排泄ケア認定看護師が中心に、定期的に事例検討会を行い、またスタッフや患者向けに研修会を企画・実施している。
研修会はがん診療に関する研修会、緩和ケア勉強会、がん患者サロンを4回/年実施している。

(課題)

- ・がん拠点病院として組織化されているが院内の周知はまだまだである。

佐渡総合病院

- 内部・外部の研修について、各々が自主的に参加し、知識及び技術の向上に努めている（院内研修用動画を院内のポータルサイトに格納し、誰でも参照できるようにしている）。
- 緩和ケアに関わるスタッフ等による事例検討を実施している。

1. 取り組み状況

癌性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、化学療法認定看護師を中心に、それぞれの委員会を作り多職種でがん医療の体制・看護の充実を図っている。

(1) 化学療法を安全・確実に実施し、患者に適切なケアを提供する

- ・ 化学療法に関するマニュアル整備と定期的な見直し・改定
- ・ 外来化学療法室の看護師の教育→勉強会、定期的なケースカンファレンスの実施
- ・ 血管漏洩に関するデータ収集→1回/年提示し、職員への啓蒙と教育

(2) 緩和ケアの体制構築

- ・ 勉強会・講演会の定期的な開催
- ・ 院内教育は新人から各レベルに合わせてのクリニカルラダーによる教育
- ・ 院外への講師派遣（看護大学、医療施設、市民公開講座など）
- ・ ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムの開催や指導者育成
- ・ 苦痛のスクリーニングによる患者面談の実施

(3) リンパ浮腫外来の設置（緩和ケア認定看護師）

- ・ 予防指導とリンパ浮腫複合的治療の実施

2. 課題

- ・ がんに関わる認定看護師は現在3名で、みな年齢が45歳以上となっている。長年活躍してくれているが、後継者ができない。（募集しても応募がない）
- ・ 化学療法の進歩・複雑化が激しく、看護師の学習・技術が着いていくのに精一杯。追い付かない不安感と増大する負担感。
- ・ 認定看護師の存在が大きく、患者からの信頼も厚い。そのため逆に皆が認定看護師に頼りすぎてしまう面がある。皆が認定看護師のレベルに近づけるように、自信と責任をもって積極的に患者と関わって行けるような教育体制が必要である。
例：認定看護師が不在の日もあるため、特に外来での患者面接や指導時に、外来看護師も専門職としての力量をもって患者と関わるようにしていく必要がある。

県立がんセンター新潟病院**【取り組み状況】**

・ がん看護にまつわる人材の育成として、院内では階層別研修、また院外へは自施設でがん看護実践力の向上及びリーダー的役割を目指す看護職員に向けて、研修を行っている。

- ・ がん看護を体系的に学べるように『がん看護教育プログラム』を作成中である。

○がん看護研修

- ・ ビギナーコース（新卒看護職員必須、がん看護を初めて実践する看護職員で希望する

者)

- ・ベーシックコース（対象者：がん看護ビキナーコースを受講済み、または当院クリニカルラダーⅢ程度の看護職員で希望する者、がん看護アドバンス受講者予定者）
- ・アドバンスコース（対象者：がん看護実務経験5年以上、県立病院クリニカルラダーⅢ以上の看護職員）

○ENECJ-C 看護師養成プログラム

○緩和ケア研修会（希望する看護職員）

【課題】

県立病院には、地域病院や専門病院での異動があり、看護実務経験が長い看護職員でも「がん看護」に携わったことのない看護職員も在籍している。そのため、がん看護の知識や経験に格差が生じている。よって、知識や経験に応じた体系的な育成支援が必要であると考えている。また、がん治療の進展により、がん看護はゲノムなどのより専門性の高い看護の提供が求められている。一方、がん以外の疾患も併せ持つ高齢がん患者への看護も必要であるため、幅広い経験と視点での看護を提供できる人材の育成が必要である。JNAからはクリニカルラダーが提示されており、看護職能としての専門的技能を階層別に習得することが可能である。しかし、個人で研修を選択し、知識を深めることは非常に難しいと考える。そのため、今年度よりオンラインで学べるSQUEクリニカルラダー別研修を導入し、活用を推進しているところである。